

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年8月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671500090
法人名	医療法人一桜会
事業所名	さくらのお家よしだ
所在地	鹿児島市東佐多町269-2 (電話) 099-245-5500
自己評価作成日	令和2年8月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ご自分のペースで日々健やかに生活して頂けるよう努めております。

季節を感じながらの生活を送って頂けるよう、梅干し作り・花見・節句・七夕飾り・おせち作り・敬老会・クリスマス会等など、季節の行事に利用者様も参加して頂いております。また当ホームは庭がとても広く、お茶会やご家族や地域の方々と夕涼み会など、ホーム内とは又違った雰囲気を楽しんで頂いております。利用者の方も好きな時に散歩等出来るように努めております。また景色がとても良く、リビングから居ながらに見える窓からの風景は、田んぼの様子だけでも四季を感じる事が出来ます。(春にはれんげの花・田植え・青く育つ稲・黄色に色づく稲穂) 季節の話題には事欠きません。利用者のみなさんが、ユニット名のごとく、ゆったり、のんびりと過ごして頂けるように支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るくゆったりとしたリビングからは田園風景が眺められ、四季を感じながら気持ちよく過ごすことができる。園庭は広く、多くの樹木や菜園、小さなベンチやテーブルも置かれ、自由に散歩できるように整備されている。お茶会や家族・地域の方々も参加する夕涼み会なども開かれる場所である。

母体医療機関や医療連携看護師、ホームの看護師および職員との連携は十分に図られ、受診経過や介護計画のほか、ケアの経過は個人生活記録や支援経過記録、業務日誌などにわかりやすく記録され、また、家族にも必要な報告が適切に行われて利用者・家族の安心につなげている。

ホームで開催する夕涼み会には家族や地域の方々に参加してもらうと共に、自治会に参加して回覧板で地域の情報を得て、総会や毎月の清掃活動などに参加している。中学生の職場体験学習や福祉ボランティア受入れのほか、地域の方々の相談への対応、また、運営推進会議や避難訓練などに地域の方々に参加してもらっている。近隣の企業からは災害時の避難場所の提供も受けるなど地域との交流は深い。

法人の栄養士とともに管理者および職員は利用者の食事への楽しさを高めるために細かな工夫をしている。嗜好やアレルギー・調理方法等への配慮のほか、菜園の野菜も含めて旬の食材を活用し、盛り付けや食卓の準備・後片づけ、野菜の下ごしらえ等利用者のできることも一緒に行っている。季節の行事食、敬老会やクリスマス会等の特別食、弁当持参の季節の花見など利用者の楽しみにつなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	日々のサービスが結果として理念に沿っているかを意識しながら業務に取り組んでいる。	法人の理念及びホームの理念に沿って、地域とのふれあいの中で、利用者が個々のペースで季節を感じながら健やかに暮らせるように日々のケアに取り組んでいる。日々のケアやカンファレンス、ミーティングなどで理念の意義を振り返り、理解を深めて支援に反映できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加、地域住民も参加する夕涼み会の開催、中学生の福祉ボランティアの受け入れなど行っている。	自治会に加入し回覧板で地域の情報を得て、総会や毎月の清掃活動などに参加している。中学生の職場体験学習や福祉ボランティア受入れのほか、地域の方々の相談への対応、家族や地域住民と一緒に夕涼み会やホームの避難訓練などに地域の方々に参加してもらっている。近隣の保育園児との交流計画もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議の中で認知症の話をしたり、認知症等見守りメイト連絡会に参加したりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、報告や検討を行っている。	会議は民生委員、長寿あんしん相談センターや消防団員・幼稚園園長等が参加して定期的に開催されている。ホームや利用者の現況や行事・事故等の報告のほか、避難訓練のほか、その時々々の議題に関して意見や情報交換が行われ、得られた助言や提案を職員が共有してサービス向上や業務の改善等に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿あんしん相談センターの職員に運営推進委員をお願いし連携を図っている。	市担当者とは電話や訪問での入退所や認定更新の手続き等の際に、ホームの活動やサービスの状況、また、利用者の暮らしぶりやニーズなども伝え、助言や対応をしてもらっている。案内される研修会にも出席して意見や情報の交換も積極的に行っている。地域あんしんセンターとは運営推進会議でも意見交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束廃止委員会を設置し毎月会議を行っている。部署内で研修を行い、周知を図っている。	年間の研修計画があり、高齢者の権利擁護や虐待防止、身体拘束等についてネットによる法人研修の他、ホームでも実施して職員の理解を深めている。特に言葉による行動制限や気持ちの押さえつけなども含めて、身体拘束のリスクについても話し合いながら、日々のケアでどのように対応するかも繰り返し確認している。利用者が外出しそうな様子を察知した際は職員が付き添い、近隣の方々には見守りや声かけをしてもらえるような関係づくりに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署内で研修を行い理解を深めている。日々のケアを振り返り、虐待につながらないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画に権利擁護を組み込んでいる。成年後見人が後見をしている入居者が居る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定の際は口頭と文書で説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で意見や要望を述べる機会を作り、要望を聞き運営に反映させている。	利用者の思いや意見を日常会話や表情の見守りなどで把握に努めると共に、個々に聞き取る工夫も行なっている。家族からは、現在は感染症対応のために電話活用が多いが、従来は訪問時の対話、年2回の家族会などで意見や要望を確認し経過記録や業務日誌等に記録している。職員は内容を共有しながら、意見や苦情についてミーティング等で話し合い、サービスの質の確保及び向上に取り組み、対応等については毎月のホームからの手紙などで報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の主任会やミーティング等で職員の意見を述べる場を設け反映させている。	管理者は、日々の申し送りや毎月のユニットミーティング、個別面談のほか、日常職員と接する中で意見や提案を把握できるよう努めている。また、人事考課制度も活用して定期面談も行って個人目標や意見なども確認して、利用者へのサービス向上や業務改善、職員の育成、働きやすい職場環境づくりなどにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算Ⅰや夜勤手当にて、給与面における環境を改善している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修に参加している。法人内に研修委員会を設置し定期的に研修を受けることができる。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同業者が開催するセミナーや交流会に参加する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望が出やすくなるように環境づくりに配慮している。なるべく話を聞き、不安を取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を通じ聞き取りを行っている。信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係部署との連携に努め情報収集を行いご本人・ご家族との面談に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の知恵、得意なこと、知識などを引き出しながら、同じ生活者として接するように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等でご家族と一緒に過ごせる時間を作っている。家族にお願いできることは委ねながら、一緒に本人を支えていることを感じてもらえるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方などが面会に気軽に来れる環境作りに努めている。	契約時には丁寧に生活歴や暮らしぶりなどを聞き取り、暮らしの中で本人が希望することを家族とも調整しながら支援している。感染症対応で現状は家族とのテレビ電話での交流を支援しているが、従来は家族及び友人・知人の訪問が多くゆったりと過ごせるように配慮している。また、手紙の取り次ぎ、針仕事や折り紙等の趣味、できる範囲の家事なども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が他者を気遣う、見守るなどの関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一旦退去されても、再入居が可能であることを伝え希望に沿うようにしている。本人が退去した後その兄弟が入居したり、その配偶者からの相談があったりする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からそれらを把握し、困難な場合は表情や言動、家族からの情報などから本人本位に検討している。	利用開始時の本人や家族からの聞き取り、日々の暮らしの中での言葉や表情・所作、特に個別対話からの思いや意向の把握に努めている。関係者で申し送りやミーティングで情報を共有して、本人の視点に立って話し合い、加えて家族の意見も収集して具体的な対応を検討して本人の希望に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関等から聞き取りや情報交換を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、申し送り、個別記録、職員間の情報交換、ミーティング等で行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との連絡を密にして、同時にカンファレンス、モニタリング等を行い、それぞれの意見やアイデアを反映し作成している。	介護計画は利用者本人や家族と話し合って意向や希望を聞き取り、職員の意見や気づき・アイデアのほか、主治医や医療連携看護師、ホームの看護師など関係者からの意見も取り入れて利用者本位のものを作成している。個別生活記録や業務日誌・支援経過記録等に、日々の様子やケアの状況、職員の気づきなどを具体的に記述し、定期的なカンファレンスや毎月のモニタリングを通じて、様々な変化に対応して計画の見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づき等は、業務日誌や個別のケア記録に記入している。申し送り、ミーティング等で情報交換しながら計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にも生まれるニーズには対応するように心がけているが、サービスの多機能化が出来ているとは言えない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりにそれぞれの地域資源を十分活用しているとは言えない。歯科医の訪問診療、地域住民との交流の場として夕涼み会への招待を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図りながら適切な医療を受けられるようにしている。	利用前の受診経過は十分把握され、現在は母体医療機関をかかりつけ医とし、定期的に往診を受けられることが安心につながっている。受診内容は記録され、必要事項は申し送り等で共有できている。利用者の状況に応じて対応可能なように看護師とも連携して健康管理に努め、家族や医師との情報交換も密に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日吊の関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送りや随時の連絡を通じて、法人の医療連携看護師や現場看護師と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は医療機関との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で重要事項説明書の中で重度化に対する指針、看取りに関する指針を説明している。状態の変化に応じて、かかりつけ医と連携しながら進めている。	重度化や終末期のケアについては、利用開始時に重要事項説明書に記載の2つの指針を基に本人や家族に丁寧に説明するとともに、様々な変化の都度繰り返し十分に話し合い、その意向を可能な限り大切にしている。看取りの実績もあり、母体医療機関とは24時間連携体制のもとでホームで行える必要な支援を実施している。関連のマニュアルは整備され、職員に対して必要な研修も行い、関係者が十分に連携してチームで支援できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、急変に備え基本的な流れはマニュアル化する事で戸惑う事がないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災マニュアルを作成している。地域の方より緊急避難場所としての協力を頂いている。</p>	<p>火災を想定した避難訓練を、年2回消防署の協力を得ながら、夜間想定も含めて実施している。近隣住民の協力も得られ、見守りをお願いして訓練に対する意見ももらっている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置をはじめ、食料・飲料水の備蓄、カセットコンロや懐中電灯等の防災用品も備えられ、関連する防災マニュアルの整備、救命講習や研修も実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持ったひとりの人として尊重し、接するよう心がけている。	日常のケアに際して個々の状況に応じた声かけや接し方を工夫し、利用者の不安や羞恥心にも配慮しながら、それぞれの生活ペースを尊重した対応を心掛けている。また、関連する接遇や認知症対応等の研修も実施し、きめ細かな観察や個人記録の取り扱い、居室の保護にも十分配慮して、人格や感性を大切に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や願いを普通の会話の中から聞き取り、それに沿う様に支援している。自己決定を促すような対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいのか希望に沿うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着る服を自分で選んでもらったり、似合いそうな服を職員が考えて決めたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の嗜好やアレルギー等を把握している。食事準備や片付け等、出来る事は参加して頂いている。	菜園の野菜も含めて旬の食材を活用し、利用者の好みやアレルギーにも配慮して献立を工夫している。盛り付けや食卓の準備・後片づけ、野菜の下ごしらえ等利用者のできることも一緒に行っている。おせちをはじめとした季節の行事食のほか、敬老会やクリスマス会、誕生会等の特別食、庭でのお茶会なども計画して利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録しスタッフ間で情報共有している。不足している場合は、代替え等を準備して補える様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は必ず口腔ケアを行っている。毎月歯科衛生士を招いて勉強会を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは極力使わずトイレでの排泄を心がけている。	利用者の見守りや排泄チェック表を活用して個々のパターンを把握し、可能な限りトイレに誘導して羞恥心・不安軽減にも努めている。おむつやパット等の排泄用品を含めて個々に合わせた工夫をプランにも組み込み、声かけや言葉使いをはじめ本人の誇りやプライバシーを損ねないよう丁寧な対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、運動、食事形態の工夫をし、便秘予防に努めている。必要時は主治医に相談している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	残念ながら入浴日、時間帯などは職員が決めているが、排泄の失敗時など必要に応じて入浴できるように心がけている。	利用者の安全面や健康状態に配慮し、シャワー浴や清拭への変更を含め、週に2～3回の入浴を声かけや誘導、対話も工夫しながら柔軟な対応に努め、ゆったりと安心して楽しめるように支援している。入浴をためらう場合には、無理強いしないように順番や繰り返し声かけも工夫し、入浴後の皮膚ケアや水分補給にも十分配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファや、居室などご自分の体調や気分合わせて過ごしたい所で、自由にその日を過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化に注意し主治医との連携を密に服薬の支援に努めている。又誤服薬がないよう職員で確認を重ねて服用いただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状況に応じて負担にならないよう、散歩・花見・料理の下ごしらえ・洗濯物たたみなど手伝っていただき気分転換の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとにドライブやピクニックをしている。ご家族で出かけられることもある。	ホームの庭は広く、自由に散歩できる環境であり、利用者の健康状態や天候を見ながら、希望するときに散歩や外気浴を支援している。現状は感染症対応で外出は見合わせているが、従来は季節の花見や初詣、ドライブやピクニックなど、季節に合わせた外出を企画して、また、利用者の能力に沿って、車や車いす等を適切に活用して外出が楽しみなものになるように支援している。家族の援助のもとで食事や外泊、墓参り、買い物なども動めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持し現金を保有している方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族と電話で話したり手紙のやり取りを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画は定期的に変更し、玄関等にも毎日ではないが、花を生けて目で楽しんでもらうようにしている。また、リビング・脱衣所に温室時計を設置して快適に過ごせるようにしている。	樹木の多い園庭は広く菜園もあり、小さなベンチやテーブルも置かれ、建物の周囲は散歩できるように整備されて気持ちよくくつろげるように配慮されている。お茶会や家族・地域の方々も参加する夕涼み会などが楽しめる。窓からの景色も良く四季を感じることもできる。リビングはゆったりとしたスペースで明るく、室温や換気調節、清潔感にも配慮がなされている。多くのソファが配置され、季節の花のほか壁には手作りの作品や絵も多く掲示されて気持ちよくくつろげる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングにてご自分の普段のだいたいの定位置がありそこでレクリエーションや他者との会話等、思い思いに過ごしていただいている。又、隣のユニットにもお互いに行き来できる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れた物を居室に持ってきて頂いている。写真を飾ったり、明るい居室作りに努めている。本人様の動きやすい配置に配慮している。	日常が本人のペースで動きやすく、居心地よく過ごせるように、使い慣れた身の回りの小物・ベッド・テレビ・椅子・写真・時計などを持ち込んでもらい、家族とも協力しながら環境づくりを工夫している。居室は畳で明るく、押し入れ・エアコンが設置されている。また一部の部屋にはベッドが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには入っているか否かわかるようにし、居室にも鈴をつけるなど本人にわかるよう、また自身の力で他者を呼べるようしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない